【　商業・事務情報　科】　３年次　【選択】科目「国語表現」授業のシラバス

１　概要

教科名	国語	**科目名**	国語表現	**単位数（コマ数）**	３単位（１０５コマ）
科目の目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。				
教科書(出版社)	国語表現　改訂版（大修館書店）			**副教材(出版社)**	楽しく書ける作文・小論文基本編「六〇〇字で書こう」改訂版（桐原書店）

２　学習の方法

⑴　予習について

教科書の内容に一度目を通しておくと、理解が早まります。教科書には文章の書き方に限らず、履歴書の書き方や面接時のマナー、正しい表記のための用字用語ミニ辞典など、表現の際に役立つページがたくさんあります。それらの内容を理解した上で、授業での作文や発表に臨めば、より良い表現ができるでしょう。

その他、普段気になった言葉の意味や使い方について、辞書などを用いて調べることも予習になります。授業に関わらず、気になったことを自分で調べようという姿勢が大事です。

⑵　授業について

授業では、自らの考えを記述もしくは話す機会が多いです。同じ授業を受けている人の文章を読んだり、発表を聞いたりすることを通して、お互いに良いポイントを吸収していきましょう。同じテーマであっても、一人ひとり考えていることは異なるため、全く違った発表や文章になります。自らの学びのためだけではなく、相手の学びのためにも、自分の考えを発表することを恥ずかしがらないようにしましょう。

⑶　復習について

基本的な漢字や故事成語・ことわざ、敬語の基本などは、何度も復習すれば、自然と身についていきます。特に、故事成語やことわざには、ストーリーがあります。由来となった物語や、実際に用いるときのシチュエーションを想像することで、知識の定着につながります。

また、授業で文章を書く機会も多いですが、文章の書き方は頭で考えるだけでは身につきません。授業で身につけた書き方、構想の組み立て方などを活かして、自分で文章を書いて練習すると良いでしょう。

〈学習アドバイス〉
●授業で扱った内容はきちんと復習しましょう。また、文章を書いた際は自分の文章を読み返して、不自然な点が無いか点検してみましょう。自分で読んでみた上で、先生に添削を受けると、文章力はさらに向上します。
●知らない言葉が出てきたときには、まずは辞書を引いてみましょう。ネットで調べても良いのですが、辞書を引くと、同じ発音から始まる別の言葉が目に入ります。繰り返し辞書を引く内に、どんどん語彙が増えていき、表現の上達につながります。
●文章を書くことを好きになりましょう。苦手意識を持つあまり、書かないということを繰り返すと、なかなか上手に文章を書くことはできません。思ったことを思い切って書いてみると、苦手意識も徐々に薄らいでいきます。大人になってからも、文章を書く機会はありますので、学生のうちに苦手意識は克服しましょう！

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。（授業に積極的に臨むことや、課題に真面目に取り組むことなどが評価されます。）
②　話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。（授業中での発言や、発表の内容、発表を聞く姿勢が評価されます。）
③　書く能力	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。（与えられた課題に適切に対応した文章が書けること、論理的に構成して文章を書く能力が評価されます。）
④　知識・理解	言葉の特徴や決まり、役割などについての理解を深め、知識を身につけている。（基礎的な漢字の読み書き、敬語の基本、日本語の文法をきちんと理解しているかなどが評価されます。）

⑵　評価の方法（以下観点①～④は「⑴　評価の観点」と対応する）

観点＼評価材料	割合	定期考査・確認テスト 実力テスト		漢字テスト	ノート・プリント	発問発言	作文	発表	グループワーク
①　関心・意欲・態度	１０%	△	自身の考えを記述する問題もあるので、意見・理由を明示しましょう。	○	○	○	○	○	○
②　話す・聞く能力	３０%					◎		◎	◎
③　書く能力	３０%	○	テーマに応じた内容で作文する問題が出題されます。		◎	○	◎	○	◎
④　知識・理解	３０%	◎	授業で扱った漢字、語句、原稿用紙のルールなど	◎	○	○	○	○	○

〈担当者からのメッセージ〉
文章を書く上で一番重要なことは、「相手意識」です。自分さえわかれば良いという気持ちで書けば、自分にしか伝わらない文章になります。自分にその気がなくても、読んだ人を傷つける内容や、相手をさげすむ内容になってしまっていることもあります。文章で損をしないためにも、言葉には慎重になりましょう。自分の書いた文章を見直して、この文章だと相手にどのように伝わるだろうか？と考えることが、文章上達の基本です。

【　商業・事務情報　科】　３年次　【選択】科目「国語表現」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	1　国語の基礎力を養う ・漢字を書く力 ・漢字を読む力 ・故事成語・ことわざ ・敬語の基本 ・文学史の基礎	9	・漢字の読み書き ・故事成語、ことわざ ・敬語の基本 ・主要な文学作品と作者	④ ④ ④ ④	・基礎的な漢字の読み書きができる。 ・故事成語やことわざの意味を理解できる。 ・基本的な敬語を理解している。 ・文学作品の名前や作者などについて、理解を深めることができる。	確認小テスト (毎時間)
5	2　書いて伝える ・整った文を書く ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・絵や写真を見て書く	12	・係り受けと文のねじれ ・常体と敬体 ・読点の打ち方 ・接続表現の種類と働き ・説明の順序	③ ③	・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことが理解できる。 ・相手に伝えることを意識した、わかりやすい文章を書くことができる。	前期中間考査 ノート提出
6	3　自己ＰＲと面接 ・自分を見つめて ・効果的な自己ＰＲ ・将来の自分を考えよう ・志望動機をまとめよう ・面接にチャレンジ	12	・自分史のふりかえり ・長所・短所のまとめ ・構成メモと原稿作成 ・志望動機の推敲 ・模擬面接	② ②	・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをすることができる。 ・質問に対して、具体的で説得力のある答え方をすることができる。	
7 8	4　作文の書き方① ・原稿用紙に慣れよう ・「話し言葉」を直そう ・箇条書き発想法 ・段落分けをしよう ・序論の書き方 ・本論の書き方 ・結論の書き方 ・六〇〇字で書こう	12 6	・原稿用紙の使い方 ・「話し言葉」と「書き言葉」の違い ・箇条書き発想法 ・適切な段落分け ・序論の書き方 ・本論の書き方 ・結論の書き方	④ ④ ③ ④ ③	・原稿用紙の使い方を理解し、適切な表現ができる。 ・「話し言葉」と「書き言葉」の性質を理解し、場面に応じて適切に使い分けることができる。 ・箇条書き発想法を用いて、自己の考えを深め、文章を書くことができる。 ・内容に応じて、文章を適切な内容に区切ることができる。 ・序論・本論・結論の三部からなる文章を書くことができる。	
9	5　作文の書き方② ・様々なテーマで作文演習 ・作文発表会	12	・様々なテーマで作文演習 ・作文発表会	③ ②	・内容や目的に応じて、適切な文章を書くことができる。 ・考えたことについて発表することができ、内容に注意しながら聞くことができる。	前期期末考査 ノート提出
後期 10	6　メディアを駆使する ・手紙の書き方 ・電話を使いこなす ・事務通信文を書こう ・メディアと情報	15	・手紙の書き方 ・電話対応の練習 ・事務通信文を書き方 ・メディアリテラシー	③ ② ②	・ルールや決まりに則って、適切な手紙文を書くことができる。 ・初対面や目上の相手に対してなど、場面に応じて電話で対応することができる。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応対のしかたを理解し、話すことができる。	
11	7　会話・議論・発表 ・相手や場面に応じた会話 ・建設的な議論の進め方 ・プレゼンテーション	15	・会話の目的と機能 ・会議による意思決定・合意形成 ・グループ・プレゼンテーション	④ ②	・場面にふさわしい言葉遣いを考えることができる。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをすることができる。	後期中間考査
12	8　表現を楽しむ ・言葉で遊ぶ ・詩歌を楽しむ ・働く人にインタビュー ・エッセイを書こう	9	・回文の作成 ・短歌と川柳 ・働いている人にインタビュー ・エッセイの書き方	① ②	・さまざまな言葉遊びを知り、おもしろさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深めることができる。 ・言葉遊びの仕組みやおもしろさを理解し、オリジナルの作品を作ることができる。	
1 2 3	9　一年間のまとめ ・国語常識の総演習	3 計 105	・学習の振り返り	①	・積極的に授業に参加し、国語に関する理解を深めることができる。	

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は話す・聞く能力、③は書く能力、④は知識・理解を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。